【運営方針4】開かれた農大づくり　　※下線部は新規取組みまたは前年度から拡充した取組み　　【評価基準】 A:大きく上回る　B:上回る　C:概ね達成　D:やや下回る　E:下回る

〔基本方向〕地域と連携した活動等による情報発信

評価項目		評価目標	具体的方策と指標・基準等	取組状況	自己評価	次年度に向けた改善策
1	農業教育機関との交流推進	(1)連携活動数:3計画	① 高大連携活動の実施【継続】 農業高校生の農業に対する興味や意欲を促進するため、農業関係高校等の生徒や教員を本校に招き、各学科の学習内容や学校生活、進路等について紹介するキャンパスツアーを実施するとともに、農業高校クラブ活動におけるプロジェクト発表会や意見発表会で助言などを行う。また、イベント等で、農業高校と合同の販売ブース設置による販売実習に取り組む。	・ 農業高校のキャンパスツアーは、4校合計139名の生徒を迎えた。4校中3校が1年生で、本校に対する理解が高まった。 ・ 県高校農業クラブ連盟の強化練習会(7/12)や意見発表会での審査(6/22)に職員を派遣し、助言等を行った。 ・ 4年ぶりに開催した「農大祭」において、各高校に出張販売を呼びかけたところ、3校から参加いただくことで、参加高校との相互理解と、農大祭の賑わい創出に繋がった。 ・ その他、山辺高校食物科の生徒4名の訪問を受け、果樹の作業体験を実施したほか、果樹のせん定講習会(りんご)に、2校(新庄神室産業高校、庄内農業高校)の指導職員参加を得た。 ＊ キャンパスツアー受入、農業高校プロジェクト発表習会参加、農大祭での合同販売に加え、山辺高校生徒受入、剪定講習会へ職員参加を実施できたことから、「B」評価とする。	B	・ 農業高校との連携強化推進会議を開催し、それぞれの事業の計画及び実績を検討する中で、各高校の意向を確認しながら取り組んでおり、次年度以降も引き続き、本校が進路選択の一つとするよう各種取組みを実施する。 ・ 本校と各農業高校の高大連携協定は、平成19年の締結以来、時間が経過していることから、山形大学農学部、東北農林専門職大学も含めた新たな枠組みを検討する。
			② 研究及び技術に関する情報提供【拡充】 高校生の林業に対する理解を促進するため、林業に関する出前授業を実施し、森林整備や刈払機、チェーンソーの安全操作等を指導する。 また、<u>本校の卒業研究発表について、農業高校等に対してオンライン配信等を実施することで、農業高校プロジェクト活動を支援する。</u>	・ 林業・森林経営に関する授業を、林業を専攻する生徒を対象に村山産業高校(8月、計2回)及び置賜農業高校(6～9月、計3回)で実施したほか、今年度、新たに左沢高校を対象にICTなど最新の技術を活用した林業現場の視察研修を実施した。 ・ 卒業論文発表会の上位大会出場者選考会を農業高校5校にリモート配信し、課題解決能力や発表力向上の参考にしてもらった。		・ 林業の出張講座はいずれの高校でも好評であることから、各高校との事前調整を十分行いながら引き続き継続していく。 ・ 農業高校側から、本校卒業論文発表会の参加に対する御礼の声が多く寄せられる一方、リモート参加のみならず会場参加に対する要望が強いことから、その受け入れについて取り組んでいく。
2	地域と連携した課題解決に向けたプロジェクト活動の実施	(1)プロジェクト実施数:7課題	①「地域協働研究プロジェクト」の実施【継続】 各学科が主体となって「地域協働研究」に取組み、専攻分野における課題を調査し、関係団体等と連携しながら、農林大の栽培や農産加工技術の強みを活かした課題解決に向けた地域支援活動を行う。 【実施テーマ】 (稲作経営学科)地域の未利用資源活用プロジェクト (果樹経営学科)最上さくらんぼの生産振興プロジェクト (野菜経営学科)希少伝統野菜の系統維持・増殖プロジェクト (花き経営学科)～花を身近に～ 最上の花き強化プロジェクト (畜産経営学科)自給飼料多給による和牛肉生産プロジェクト (農産加工経営学科)アスパラガスを活用した加工品開発ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ (林業経営学科)新庄神室産業高等学校と連携した若手林業者育成プロジェクト	・ 全学科の1学年学生が各々の学習内容を生かし、以下の連携先と地域協働研究プロジェクトに取組んだ。 ＜主な連携先＞ (稲作経営学科)東北おひさま発電株式会社 (果樹経営学科)最上さくらんぼブランド確立プロジェクト推進協議会 (野菜経営学科)最上伝承野菜推進協議会、堀内ファーム (花き経営学科)JAもがみ中央、最上総合支庁農業技術普及課 (畜産経営学科)若手繁殖経営体、酒田農業技術普及課、畜産研究所等 (産加工経営学科)最上町 (林業経営学科)新庄神室産業高等学校 ・ プロジェクト発表会を1月に行ったところ、連携先からは、プロジェクトの取組みと成果に、高く評価と感謝をいただき、さらなる研究の継続を依頼された。 ＊ プロジェクト実施は、目標どおりの7課題であることから、「C」評価とする。	C	・「地域協働研究プロジェクト」については、引き続き栽培・飼育管理や農産加工技術等の強みを活かして、より一層地域の課題解決に取り組む中で、学生個々のスキルアップと卒業研究に繋げていく。
		(2)地域と連携した取組み数:3課題	① 地域と連携した取組み【継続】 「フラワーフェスティバル」、「山形県ホルスタイン共進会」など、農や食に関する品評会への出品や運営スタッフとしての参加を通して、地域の活性化や栽培・飼養管理技術の向上につなげる。	・ 最上町で産地化に取り組むアスパラガスを素材とした新たな加工品開発に地域と連携して取り組み、コロッケが定番化したほか、新たに菓子3種類の提案を行っている。 ・ やまがたフラワーフェスティバル(9/3)において、寄せ植え体験教室の講師役を務めることで、地域との連携を深めた。山形県ホルスタイン共進会(9/1)においてはスタッフとして活動する中で貢献した。 ・ 最上普及課と連携し、さくらんぼ実証圃を設置しながら高品質生産に取り組んでいる。 ＊ 商品化等により、連携が強化されたことから「B」評価とする。	B	
3	ボランティア活動への支援	(1)取組み数:3取組み	① 学生主体のボランティア活動への支援【継続】 学生の社会経験が、学習や進路選択に活かせるよう、学生のボランティア活動(さくらんぼサポーター活動、高齢者宅の除雪作業への参加等)を支援する。	・ 6月14日、山形県農業労働力確保対策実施協議会と連携し、稲作経営学科2年生10名が、天童市のさくらんぼ農家に出向き、水稲の複合作物の作業体験を兼ねて、おうとうの収穫作業に従事し、相手先から喜ばれた。 ・ 新庄養護学校と連携し、同校生3名の作業実習体験を受け入れ、一緒に作業を行う中で適宜アドバイス等を行った。(5学科:9/6、10/17、1/17) (当初予定していた除雪ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ(連携先;新庄市社会福祉協議会)は、少雪のため実施できなかった。) ＊ 除雪ボランティアは実施できなかったが、養護学校生徒の受け入れを3回にわたり行ったことから、「C」評価とする。	C	・ ボランティア活動は、校外の地域住民等との交流からコミュニケーション能力や社会貢献意欲の向上につながることから、来年度も、積極的に取り組んでいく。

自己評価	自己評価
・ 農業高校との交流については、高大連携会議等を通じて、計画と実績について検討・共有が進んでおり、各事業の成果に繋がっている。 ・ 地域共同研究プロジェクトは、地域振興や活性化への貢献のみならず、地域に対する愛着や誇りコミュニケーション能力向上に結び付いており、地域からの評価も高い。 ・ ボランティア活動については、活動先からの感謝や期待が寄せられることで、学生の意欲の醸成に繋がっている。	C

学校関係者評価	学校関係者の意見・要望等→次年度の改善策等	評価
・ 農業高校等専門学科共通の特徴として進学率の高まりがある。高大連携活動の中で、向上心のある生徒に向けた進学イメージを高めるキャンパスツアー等の取組みは重要である。 ・ 東北農林専門職大と連携しながら、地域課題の解決、地域活力の創出に期待する。 ・ 地域連携プロジェクトについて、地域に根差し、地域の魅力を引き出した商品開発が進むなどの活動も活発である。	・ 人材育成の観点から、高校、山形大、東北農林専門職大との交流は重要。農業高校、山形大学農学部との連携協定に、東北農林専門職大学を含めた枠組みの見直しを通して、次年度以降のさらなる連携強化に期待する。 → 農業教育に取り組む県内のすべての高校、大学を対象とした連携協定を検討することで、早い段階から農林業や進学先に関する興味・関心を喚起し、教育効果の向上に取り組む。 ・ 新キャンパスでの活動が始まるので、SNS、ホームページを活用した情報発信、PRなどにも積極的に取り組んでほしい。メディア利用も有効である。 → 学校広報誌をホームページに新たに掲載する等、学生活動の様子を一層積極的にPRし発信力を高めることで、入校希望者の増加に繋げていきたい。 ・ 学んだことの活かし方として、社会貢献やボランティアにも取り組んでほしい。 → 引き続き地域協働研究プロジェクトや各種ボランティアを通じて、他者と係わりながら、学生の意欲の喚起や、一層のスキルアップに繋げる。	C